

令和7年度 教育目標、努力目標、学校経営方針等について

八戸市立根城中学校

校長 熊谷 誠二

1 校訓・教育目標・努力目標

(1) 校訓 英知 健康 常識

(2) 教育目標

すべての子どもが生き生きと元気に学び合う学校

- ・社会の一員として自立できる生徒（自立）
- ・集団生活で連帯できる生徒（連帯）
- ・社会に貢献できる生徒（貢献）

(3) 努力目標（目指す生徒像）

- ・集団の向上を目指し、認め合い励まし合える生徒
- ・確かなめあてをもち、学び合い高め合える生徒
- ・夢をもち、最後まで決して諦めない生徒

2 学校経営の基本理念

○全ては生徒の幸せのため+いのち最優先→ 判断基準は子ども

- ・生徒が笑顔で生活し、「知・徳・体」バランスよく育む学校（目指す学校像）
- ・生徒の可能性を信じ、誰一人取り残さない指導を心がける教師（目指す教師像）

3 学校経営の方針

根城中学校の教育目標達成を目指し、学習指導要領及び青森県教育委員会、八戸市教育委員会の学校教育指導の方針と重点を踏まえるとともに、全教職員が自分の持ち味を生かし「チーム根城」として協働的に業務に取り組めるよう組織マネジメントすることで、根城中学校らしい特色ある教育活動を創造、推進する。

- (1) これまでの教育活動のよさを生かしつつ、生徒等の実態や現在の社会状況を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを適切に行うことで、教育活動の質の向上を図る。
- (2) 生徒が笑顔で、安全かつ安心して生活することができるよう、「魅力ある学校づくり」を推進する。
特に、「居場所づくり・絆づくり」の視点で、授業や諸活動を見直し、充実を図る。
- (3) 「働き方改革」の視点で学校の教育活動を見直すとともに、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、校種間連携及びコミュニティスクールを基盤とした教育活動を推進する。

4 学校経営の重点

(1) 教育活動の質の向上

- ① 生徒の基本的自尊感情を高めるなど、「いのち最優先」とした教育活動の実施
- ② 生徒や学校等の実態を踏まえ、教科等横断的な視点を考慮した指導計画作成と実施
- ③ 「確かな学力」を保証するため、ICT活用と聴く場面・対話する場面を工夫した各教科の授業の充実
- ④ 「豊かな心」を育むため、「相互理解、寛容」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を重

点項目とした、「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実

⑤ 「健やかな体」を育むため、発達の段階に応じた保健体育の授業及び諸活動の充実

⑥ 教育目標・努力目標を評価規準とした教育活動の評価及び改善

(2) 「魅力ある学校づくり」の推進

① 「基本的自尊感情」を高め、全ての生徒の「居場所」を保障する生徒指導の推進

② 社会の一員として「自立」した生徒の育成を目指したキャリア教育の推進

③ 生徒と生徒、生徒と教師の「絆」を深め、「連帯・協働」できる集団づくりを目指した特別活動の推進

④ 社会・地域社会に「貢献」できる生徒の育成を目指した総合的な学習の時間の推進

⑤ 「魅力ある学校づくり」に向けた取組を工夫した学級・学年経営の推進

(3) 校種間連携及びコミュニティスクールを基盤とした教育活動の推進

① 多面的な生徒理解のための情報交換及びそれに基づいた指導の充実

② 中学校区の児童生徒に共通する課題の解決を目指した協働実践の推進

③ ふるさとへの誇りと愛着を育むため、「社会貢献・地域貢献」につながる教育活動の推進

④ よりよい生活習慣・学習習慣を身に付けるため、家庭と連携した指導の推進

⑤ 安心・安全な学校・家庭生活ができるような地域社会と連携した安全教育の推進

⑥ 生徒の成長や頑張りを伝えるため、保護者及び地域住民に対する積極的な情報発信

(4) 教職員の研修の充実

① 学校課題解決につながる研究・研修計画の作成及び実施

② 教科の壁を越えて互いに学び合う校内研究の推進

③ 現代的な諸課題や生徒を見取る力の育成等に対応した一般研修の工夫

④ 授業改善や教育活動改善に生かせる校外研修への積極的参加

5 令和7年度学校目標

「話し合いと振り返りを通し、自他の成長に向け、思いやりをもって取り組む生徒の育成」

○重点施策～ていねいな言葉遣いを基本として～

- ・ 人間関係形成・社会形成能力（他者の個性を理解する力→聴く力・対話する力）の育成を重点としたキャリア教育の推進
- ・ 教師や仲間と対話する場面を適切に位置付けた授業づくりの推進
- ・ 意思決定や合意形成するための話し合い活動や振り返り活動を積極的に取り入れた学級活動等の推進
- ・ 互いを認め合い、高め合える集団づくりを目指した学級・学年経営の推進